

今日の説教のポイント<創世記2～3章>

①神の命の息を吹き込まれた被造物、人間！

神様は被造物の中でも人間だけに「命の息」が吹き入れられました(2:7)。その後を追うと、神様が人間に期待しておられたのは、神様の言葉を聞いてそれを受け入れて生きることであったことが分かります。人が本当に「生きるものとなる」(2:7)のは、造り主なる神様を知り、その声に聞き従いながら生きていくときなのです！

②その人間に与えられた務め—「耕し、守る」の意味は？

その人間に与えられた仕事は「耕し、守れ」(15)です。しかし、「どの木からでも取って食べなさい」(16)と言われているので、人間が飢えないためにそうせよと言われている感じはありません。むしろ、この「耕し、守れ」は被造世界全体の保持が託された感じですが。6日目に造られた人間は、それまでに造られた他の被造物が保持されて初めて存在できる弱い存在であることも忘れてはならないでしょう。

③罪なき人はいない — そのことを告げる創世記三章の物語

アダムとエバがへびに騙されて神様の言葉に背く物語は、私たちの罪の起源を示そうとしているのではありません。罪から逃れられる人は一人もいないという事実を示しているのです。他者の意見に動かされやすく、一度生じた欲望を退けるに弱く、人のせいにし、果ては自分を造られた神様のせいにする、そういった私たちの罪の姿を示しているのです。ではなぜ神様はそれを止められなかったのか？ 神様は、人間が自ら喜んで神様の声に従う道を選んでほしかったのです。

④神様がその人間にされたこと — 恥を覆って下さった！

アダムとエバは神様によってエデンの園から追放されます。しかし、神様は皮の衣を作ってアダムとエバに着せ、裸という恥を覆って下さったことも忘れてはなりません(21)。私たちは罪深く、追放されても仕方がない存在。しかし、その私たちの恥をご自身が見たくないかのように覆って下さる神様。この神様が送って下さったお方こそがイエス・キリストなのです！ 園の外の地も、このキリストの神様と共に歩むときに平安な地となるのです。このキリストによって神様がどんな救いを用意して下さったか、来週迫りたいと思います。